

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 8 月 9 日 (2007.8.9)

【公開番号】特開 2006-17635 (P2006-17635A)
 【公開日】平成 18 年 1 月 19 日 (2006.1.19)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-003
 【出願番号】特願 2004-197086 (P2004-197086)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 1/22 (2006.01)

G 0 1 N 1/00 (2006.01)

G 0 1 N 27/12 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 1/22 N

G 0 1 N 1/00 1 0 1 F

G 0 1 N 27/12 A

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 6 月 19 日 (2007.6.19)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】請求項 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【請求項 2】

前記検出用容器にオーバーフロー管を連通接続して前記オーバーフロー機構を構成し、前記オーバーフロー管に開閉自在な弁を設けてある請求項 1 記載の揮発性溶解物の検出装置。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 7】

本発明の第 2 特徴構成は、前記検出用容器にオーバーフロー管を連通接続して前記オーバーフロー機構を構成し、前記オーバーフロー管に開閉自在な弁を設けてある点にある。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 8】

〔作用及び効果〕

検出用容器にオーバーフロー管を連通接続してオーバーフロー機構を構成してあるので、略一定量を越える液体を、検出用容器からオーバーフロー管を通して、容器外部にオーバーフローさせることができる。

また、オーバーフロー管に開閉自在な弁を設けてあるので、略一定量の液体が検出用容器に入った後は、容器外部の雰囲気はオーバーフロー管を通して検出用容器に入り込まないように、オーバーフロー管を閉じておくことができ、揮発性成分を一層精度良く検出することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

次に、図5に示すように、第1連通管路5aと第2連通管路5bとの連通が遮断されるように第1三方弁V1を切り換えて、第2連通管路5bを遮断し、下部連通管路9が第2中間供給管路J2に連通するように第5三方弁V5を切り換えて、検出用容器1中の参照用液体Aを第2ドレン排出管路F2を通して容器外部に排出する。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

- 1 検出用容器
- 2 参照用液体容器
- 3 被検液体容器
- 4 ノズル
- 5 連通路
- 8 オーバーフロー管
- A 参照用液体
- B 被検液体
- C 空間
- D 供給機構
- E オーバーフロー機構
- F 2 液体排出管路
- G 1 液体供給管路
- G 2 液体供給管路
- H 弁機構
- L 加圧気体供給装置
- S センサ
- V 2 弁